


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2023 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	駒井 俊彦	会員番号	0034082	
申請者の所属・職名	東京大学医学部附属病院アレルギー・リウマチ内科 特任講師			
出席会議名	American College of Rheumatology (ACR) Convergence 2023			
発表論文タイトル	Development of interstitial pneumonia with autoimmune features in conditional Tgfb3 deletion			

実施結果:

この度は 2023 年度後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に選出頂き、誠にありがとうございました。

本 Travel Award の御支援のもと、私は 2023 年 11 月 10 日から 15 日まで米国のサンディエゴにて開催された American College of Rheumatology (ACR) Convergence 2023 に参加させていただきました。本学会はリウマチ学分野の世界規模の学術集会であり、基礎免疫学、臨床免疫学、リウマチ・膠原病領域の臨床医学に関わる研究者、臨床医が集い、活発な意見交換がなされる学会です。

私は、本学会にて TGF- β 3 を T 細胞特異的に欠損させたコンディショナルノックアウトマウスでは、自然発症として自己抗体産生を伴う間質性肺炎が生じること、誘導性の間質性肺炎が増悪すること、免疫学的異常を生じることを報告いたしました。TGF- β 3 は、私が所属する研究室で同定された LAG3 陽性制御性 T 細胞が産生する液性因子であり、免疫代謝の抑制を行いながら液性免疫応答を制御するサイトカインです。TGF- β スーパーファミリーの中では、TGF- β 1 に焦点を当てた先行検討が多かったことから、機能・シグナル伝達・病態形成における TGF- β 3 と TGF- β 1 との差異、役割の違い、につき多くの研究者の先生方から質問を頂き、活発な議論をすることができました。また、本学会での多くのセッションに参加したことは、国内未承認の薬剤についての臨床研究や臨床試験の報告、新しい臨床免疫学のアプローチなど、今後の臨床・研究に活かせる知見を得る貴重な機会となりました。

本学会の特徴として、国内外の初対面の研究者の先生がテーマ毎のラウンドテーブルにて学術交流、私的交流をする機会が設けられており、新しい視点や学際的知見に加え、国内外の新しい研究者仲間を得たことは今後の展望に向けた大きな財産となりました。今回の会議で得られた経験を今後の研究に活かし、免疫学の発展に貢献できるように努めて参りたいと思います。

末筆ではございますが、こうした貴重な機会を賜りました岸本忠三先生、選考委員の先生方、御推薦頂きました藤尾圭志教授に 深く感謝申し上げます。